

所感

近畿運輸局 局長

大久保 仁

1

神戸の思い出

神戸運輸監理部長

安藤 昇

5

12年度(第6回)サロンセミナー(講演概要)

グローバル化時代における日本の行方

奈良県知事

荒井 正吾

10

かんこうけんコロキウム

Vol 12 (基調講演)

大型高速フェリーの省エネと問題点

新日本海フェリー株式会社 取締役海務部長

高岡 淳

27

12年度懸賞論文審査結果

審査委員長代行 神戸大学大学院教授

小谷 通泰

32

かんこうけんコロキウム

Vol 14 (入選論文)

行動要素間の相互依存性を考慮した観光施策評価手法の提案

JR西日本の紀勢線津波対策の検討

35

かんこうけんコロキウム

Vol 15 (基調講演)

自動車技術の最近の動向 (行政の立場から)

国土交通省近畿運輸局 自動車技術安全部長

山崎 孝章

38

公益財団法人関西交通経済研究センター

新人スタッフ紹介

土井 眞三・松野 佳幸

49

編集後記

公益財団法人関西交通経済研究センター 常務理事

坪倉 啓二

59

所感

近畿運輸局長に就任して



近畿運輸局
局長 大久保 仁

自己紹介

4月10日付で、近畿運輸局長を拝命しました大久保 仁です。これまで6年間にわたり、成田国際空港株式会社で勤務しております。久しぶりに運輸行政の現場に戻ることとなりました。近畿地方は、古くから経済文化の中心地であり、人口2千万人・経済規模 GDP1兆ドルと言えば、世界200ヶ国を見渡すと十数番目の国に相当する大規模で重要な地域です。具体的国名をみると、日本の20倍の面積を有するオーストラリア、アジアでは成長著しい韓国、ヨーロッパ先進国ではオランダといった国々に匹敵する経済集積を有する地域です。さらに、古くから交通・観光が栄え、高度な社会基盤システムを有している地域であることは疑いがありません。

私は、そのような近畿地方が更に一層活性化できるように、全力で取り組んでまいりますので、よろしくお願い申し上げます。さて、まず私の経歴を若干申し上げます。私はこの20年間、3年間の海運の世界を除いては航空・空港の整備という世界を中心に仕事をしてきました。しかし、それ以前は、鉄道・自動車などの陸上交通行政の世界で10年近く仕事をしており、この大阪・近畿地方は昔大変お世話になった懐かしい土地です。最初入省して2年目に航空局で伊丹空港の騒音問題に携ったのが関西との関わり始まりでして、3年目からは当時の鉄道監督局で大手民鉄、地下鉄などの民営鉄道行政の世界に入り、その後、経済企画庁、中部運輸局、地域交通局などで陸上交通行政を続けることになった思い出の場所です。

昔の名前で出てきましたというわけで、最近の事情には疎いものの、皆様方にいろいろご指導賜り、全力でこの仕事に取り組んでいきたいと思っております。

基本的な視点

さて、世界の経済状況はリーマンショック以降、先進国から中国をはじめとする新興経済諸国に経済成長の主体がシフトするという潮流の中で、急速に変化しています。また、日本では安倍政権のアベノミクスといわれる経済政策の大きな転換により、これ

までの経済環境と変わって、金融緩和・円安・株高による実体経済での景気回復の期待が高まっています。我々運輸行政も、そのような景気回復の流れに貢献し、対応できるようにしっかりと取り組んでいきたいと思えます。そのような中で、安全・安心を確保し、お客様へのサービスの向上を図り、運輸産業としての経営基盤を強化しながら、人流、物流、観光といった高度な社会基盤を形成・拡充していく必要があります。

このような課題に対して、私は、「顧客視点に立って、対話を重ねながら、前向きに変化していく」という基本方針に立つことが重要だと考えています。すなわち、まず第1に行政、企業だけの視点ではなく、お客様の視点を持つと考えていくこと。第2に、民間企業、運輸局が地方行政機関などの関係者と議論を重ね、発信力を持ちながら対話を重ねていくこと。第3に、そのような過程を経て、新しい時代に対応した運輸産業、観光産業を目指して、運輸行政も前向きに変化していくことが必要だと考えています。このような基本方針に立って、全力で近畿地方の運輸観光産業の活性化に取り組んでいきたいと思っております。

近畿運輸局の重要課題

それでは、私が今後取り組むべき近畿運輸局の重要課題について6点申し上げます。

復を図っていきます。



- (1) 1つ目は、防災・危機管理対応です。4月の淡路島付近の地震、また東南海地震への備え、北朝鮮のミサイルなど、最近、わが国の安心・安全を脅かす事態が生じております。こうした動向を引き続き注視するとともに、不測の事態においても迅速かつ的確に対応し、交通機関がその機能を最大限発揮できるよう、適切に対策を講じていきたいと思っております。
- (2) 2つ目は、公共交通機関の安全確保です。バスについては、昨年4月の関越道等の事故等を踏まえ、本年7月までに、高速ツアーバスから、高速乗合バスに移行し、利用者に対する安全責任を事業者自らが負うこととしています。期限内に移行が完了できるよう最大限の努力を行っていきます。また、「高速・貸切バスの安全・安心回復プラン」が発表されていますが、事故の再発防止と、事故により大きく揺らいだ高速バス及び貸切バスへの信頼回復を図っていきます。

鉄道については、踏切での障害事故の減少を図るべく、鉄道施設等の安全性の向上、運転保安設備等の整備、鉄道事業者に対する

る保安監査の実施等の施策を推進するとともに、踏切道の立体交差化や構造改良、踏切保安設備の整備等に努めています。

海運については、大型長距離フェリーや危険物積載船等に対し、安全設備、訓練等が適正に維持・実施されていることを確認するため、立ち入り点検を実施していきます。また、外国船舶に対してポートステートコントロール（PSC）を行い、外国船舶の航行安全の確保と海洋汚染等の防止に努めていきます。さらに、新たに策定した川下り船の安全対策ガイドラインを活用しての安全指導、プレジャーボート等小型船舶を対象に事故防止、ライフジャケットの着用推進等、安全対策に力を入れていきます。

さらに、運輸事業の安全・安心の確保のためには、事業者自らが経営トップから現場まで一体となって安全管理体制を構築し、積極的に安全対策に取り組むことが不可欠です。このため、安全思想の普及・強化に向けて運輸安全マネジメント制度の充実に積極的に取り組んでいきます。

(3) 3つ目は、観光振興を通じた地域活性化に関する取り組みです。平成24年3月に「観光立国推進基本計画」を策定し、新たな目標を達成するため、訪日外国人旅行者の増加に向け、ピシット・ジャパン地方連携事業を展開しており、韓国・中国をはじめ、東

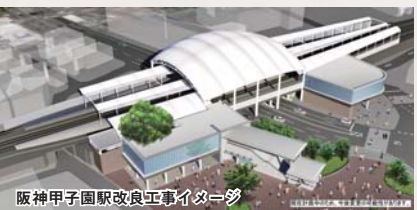
が東線の放出以北の旅客線化事業の推進に取り組んでいきます。

自動車販売については、ワンストップサービスについては、既に導入されている大阪府及び兵庫県に続いて、奈良県で全国11番目となる導入を予定しており、



この4月から試行的に運用を開始しています。また、今後の新たな交通手段として、省エネ・低炭素効果が期待される、超小型モビリティの先導導入や、試行導入の取組を重点的に支援していきます。

フェリー・内航海運については、輸送需要の低迷や燃料油価格の高騰などにより、厳しい経営環境にあります。国民生活や経済活動にかかせない基幹産業として、維持・活性化等に積極的に取り組んでいきます。さらに、内航船員については、高齢化の進展による船員不足の解消を図るため、内航船員の確保に努めてまいります。



阪神甲子園駅改良工事イメージ

南アジアなどへの取り組みを進めていきます。



国内観光においても、「官民協働した魅力ある観光地の再建・強化事業」を近畿の11の地域で展開するとともに、「観光圏整備事業」により地域振興を図っていきます。近畿各地域での歴史・文化・スポーツ等によるユニークツーリズムの造成や九州新幹線、LCC航空路線の増便等の需要拡大を踏まえた、関西における広域的な魅力ある観光振興を推進し、地域の活性化に貢献していきます。

(4) 4つ目は、地域公共交通の確保・維持です。

生活交通の存続が厳しい地域等において、最適な移動手段が提供されるための取組や、移動に係るバリア解消のための取組を支援するため、平成23年度に「地域公共交通確保維持改善事業」が創設され、引き続き、本制度により地方のバス路線など生活交通の確保・維持に向けた取組を支援していきます。

(5) 5つ目は、交通運輸サービスの発展・利便性向上です。

鉄道事業については、阪神甲子園駅大規模改良事業及びおさ

バリアフリー対策については、「バリアフリー法」に基づく平成23年3月末に決定した新たな基本方針に基づき、整備目標の確実な達成と「心のバリアフリー」の推進に取り組んでまいります。

(6) 6つ目は、物流・環境対策の推進です。

物流については、関西の産学官が一体となった「国際物流戦略チーム」を中心に、関西国際空港の活用促進、阪神港の機能強化等に取組むこととしております。

環境対策については、温室効果ガス排出量削減のために、当局の行動計画である「交通環境対策アクションプラン」を基に取り組んでまいります。特に、通勤手段をマイカーから環境負荷の少ない公共交通機関等へ転換する「エコ通勤」や、企業が環境負荷の少ない事業運営を目指す「グリーン経営」の推奨を進めてまいります。

以上6つの重要課題を申し上げましたが、今後とも、当局の行政の推進に関し、皆様方からの一層のご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

神戸の思い出



神戸運輸監理部長 安藤 昇

先般、7月1日付けで神戸運輸監理部長に着任した安藤と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。着任早々「思い出」というのも妙ですが、少し事情があります。

東京で生まれましたが、子供の頃、父の転勤にともない大阪市内で4年、伊丹市で13年、家族が関東へ戻った後に吹田市の下宿で3年、運輸省入省後の初任地神戸で1年半と、阪神間で20年余り転々とし、この度、32年振りに戻ってきたという訳です。精神形成期の殆どを関西で過ごし、実質的に関西育ちでありながら、実家はもうこちらにないので、離れて以降、関西との接点は殆どありませんでした。かつて神戸で生活したのは僅かの期間でしたが、やはり初めての土地ではないので、今回の勤務は「思い出」と照らしながらのスタートです。着任後、日が浅いのですが、この間に見聞きした事と昔の記憶とを比べながら、また、当運輸監理部の業務にも若干触れながら、感想めいたものを記したいと思ひます。

◆神戸港西部◆

神戸運輸監理部の前身は神戸海運局であり、その業務の中心は海事行政です。そのため、庁舎は、神戸港のメリケンパークと新港第一突堤に挟まれた



旧居留地の建築

この地区の石造りの建造物に依存していると思ひます。これらの建物は幸い震災を経ても概ね無事だったようで、むしろ、昔は専らオフィス街であったものが、最近では、ブランドショップやカフェなどの店舗としても利用されており、華やかさを増しています。



南京町の牌楼(門)

はかつての記憶が殆どありません。調べてみると、私が神戸を離れた直後(昭和56年)から地元元の華僑の人たちの手によって、現在のようにな立派な牌楼(門)や東屋の整備、春節祭などのイベントが始められ、震災後のボランティア活動にも尽力されて、今に至っている由。神戸観光の目玉地区となり、繁栄されていることに敬意を表します。

その北側(山側)の元町駅と三ノ宮駅の高架下にあった長く狭い商店街も健在でした。しかし、かつては戦後の雰囲気の色濃く残る店達でしたが、今は狭いながらも個性的なお洒落な雑貨屋、洋品店、靴屋などが多く、様子はかなり変わったようです。

ところで、山側・海側という言い方は昔から使われており、山と海に挟まれた細長い神戸の街にとって方角を知るのに便利で分かりやすく、迷いそう

海岸べりにあります。執務室からは、外航クルーズ船や港内遊覧船の入出港、造船所のクレーン、倉庫等が見え、時おり汽笛が聞こえるなど、海事関係の仕事を行うのにふさわしい環境にあります。



みなと神戸花火大会

かつてこの辺りには焼玉エンジンの機帆船(いわゆるボンボン船)の船溜まりなどで雑然としていましたが、メリケンパークの整備や阪神・淡路大震災からの復興を経て、明るく綺麗になりました。8月初めに開催された「みなとこうべ海上花火大会」は、1万発の花火等が回りに遮る物もなく打ち上げられ、見事なものでした。

昔と変わらず健在なポートタワーや中突堤を越えた西側には、「かもめりあ」という旅客船ターミナルがこれも震災後に整備され、港内の遊覧船等の発着場として利用されています。これらの遊覧船やレストラン船は、神戸が港町であることを体感してもらったための大切な観光資源です。一方、本四架橋の建設以降、神戸に起点のあった沢山の瀬戸内定期航路が殆どなくなったのは残念ですが、観光振興、利用者利便や万一の場合に備えた代替交通手段の確保の観点からも、残る航路の維持に力を注いでいきたいと思ひます。

その先の中突堤西側に広がった倉庫・工場地区は、神戸ハーバーランドとして再開発され、大型商業施設などに生まれ変わり、賑わいを見せています。

◆旧居留地から南京町◆

当監理部庁舎の北側(山側)には、海岸通を経て、旧(外国人)居留地も広がっています。神戸のハイカラながらも歴史の重みを感じさせる雰囲気は、

な大きなビルの中や地下街などでもその表示をよく見掛けます。

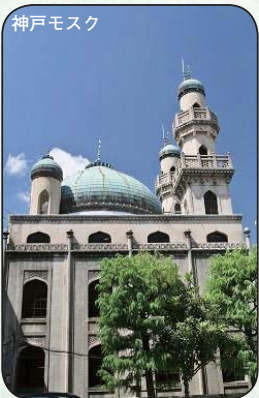
◆トアロードから北野地区◆



北野異人館

さらに、山側への坂道トアロードを登っていくと、山本通に私の宿舎があります。このトアロード近辺は昔から異国情緒の強く漂うエリアです。トアロードという名前は通称で、その由来は坂の上に昔あったトアホテルに続く道ということで、このトア自体には英語のtor(岩山)か、大東亜共栄圏の東亜など諸説ある模様。かつて、この道は、外国人による山手の居住地と実際の居留地(職場)との間の通勤経路であったとのことで、異国情緒の理由を納得した次第です。

その山手の外国人居住地が北野の異人館街で、私の宿舎の山側がその一帯となっています。一時のブームほどではないにせよ、休日ともなれば、多くの観光客が地図を片手に付近を散策しています。この辺りのマンションなどには、今でも多くの外国人が住んでいるようで、欧米系、中国系、イスラム系らしき人達をよく見かけます。立派なモスクもあり、我が家に居ると、時どきお祈りのコーランの音が聞こえてきます。その周りには、ハラルフード専門の食料品



神戸モスク

店なども並び、独特の雰囲気を感じています。また、トアロード沿いには、「北野工房のまち」という、少子化と震災被害で閉校となった小学校の木造校舎を利用した商業施設があります。お菓子、食料品、クラフトなどの職人さんたちの仕事風景を見たり、体験ができ、また、近所のコミュニティの交流の場としても活用されています。狭隘な北野地区において、観光バスの駐車場や神戸市内の観光地を結ぶシティループ・バスの停留所が設けられていることから、多くの人が訪れる観光スポットとなっています。近所なので、私も時々覗きますが、おじさんでも結構楽しめます。

北野地区の東寄りやや女人好きですが、「海外移住と文化の交流センター」という資料館があります。ここはかつて国立移民収容所と呼ばれ、1928年（昭和3年）に開設されてから1971年（昭和46年）に閉鎖されるまで、日本における海外移住の基地として、ブラジルなど南米を中心に多くの移住者を海外に送り出しました。すなわち、海外移住を志す人達は家族とともに、現地事情に関する研修や予防接種等の準備のために、出港前の10日間程、この施設に入ることが義務付けられていた。建物は鉄筋コンクリート5階建てで移民船の内部に似せて作られており、宿泊施設の他に教室、診療所、集会所等が設けられていました。戦災や震災の難を逃れて、当時の建物が今も健在です。大手船会社による移民船の募集の様子や、第1回芥川賞を受賞した石川達三の『蒼氓』は、新聞記者時代に同行取材したこの移民収容所を見て日本各地から集まった全ての移民者が、最後に見た母国の風景は神戸港と六甲山の風景であったことなど、興味深い事実が満載です。私が役所に入った頃、海事関係の法令に移民船の安全基準なるものが残っていたとの記憶とも結びつき、貴重な見学体験でした。

このセンターから更に山側へ登っていくと、ビナスブリッジを経て、鶴山と市草山があり、神戸港と市内を一望できます。日が暮れると鶴と神戸市



神戸ハーバーランド界隈のレストラン船

は、一期工事（現在の北部地区）が完成し、丁度「ポートピア81」が開催された頃でした。その後、各地で開催されるようになった地方博の走りです。中学時代に吹田市で開催された万博ほどではないにしろ、まだ物珍しく、満員のポートライナーに揺られ、随分と並んでパビリオンを見た覚えがあります。埋立ての人工島なので、震災時には液状化等で大変だったようですが、2005年に二期工事（南部地区）が完成しました。現在は島の周辺部がコンテナ・ターミナル、中央部は倉庫等の港湾施設に利用されていることに加え、大塚、先端医療施設、研究機関等が集積しています。スパコン京とIPS細胞の再生治療で名を馳せている理化学研究所の施設もここにあり。神戸港のコンテナ取扱いは、ポートアイランドとその隣に造られた六甲アイランドで大宗を占めますが、関係者の努力にもかかわらず、震災以降、国際的な地位が低下していることは残念です。当運輸監視部としても、「国際コンテナ戦略港湾」政策の下、港湾の主要機能たるコンテナ取扱量を増やすとともに、我が国経済の競争力強化のためにも国際基幹航路の維持・拡大に向けて取り組んでいく所存です。

三宮から東に進むと、HAT神戸という神戸市の東部新都心があります。この



神戸港のコンテナ・ターミナル

章のマークが点灯し、神戸の夜のシンボルとなっています。

◆神戸港東部◆

再度、海に戻って神戸大橋のたもとには、ポートターミナル（新港第四突堤）があり、5万総トンを超えるような大型クルーズ船はここに着きます（小型船は中突堤など）。昨年の神戸港へのクルーズ船の寄港隻数（延べ）は110隻で、横浜港、博多港に次ぐものでした。大型クルーズ船の乗客数は2千人〜3千人であり、寄港地での陸上観光や買い物による経済効果は相当なものです。欧米で発展・定着してきたクルーズ・ビジネスが近年、東アジアでも展開され、昨年初めて日本への寄港回数が千回を越えて過去最高となりました。今年は、日中間の影響による低下が避けられないでしょうが、中長期的には今後も伸張が期待される分野です。一方、昨年の我が国のクルーズ人口（邦人のクルーズ旅行者数）は、外航クルーズ利用者12万人、国内クルーズ利用者9・6万人、合計21・7万人となりました。約10年振りに20万人を上回りました。しかしながら、北米のクルーズ人口1,500万人、欧州600万人と比べると、まだまだ僅かです。私も米国駐在時代などにプライベートで3回乗船しましたが、本当に楽しいものでした。今や1泊当たり1万円程度（船内食事込み）のカジュアルなクルーズ船も増えており、贅沢で庶民には無縁とのイメージを払拭し、ファミリー層や高齢者層の新たな旅行レジャーの形態として、我が国でも普及することを願っています。さて、神戸大橋を渡ると、ポートアイランドです。私が前に神戸にいたの



停泊中のクルーズ船

地区にかつてあった製鉄所などが震災により移転した跡地を再開発したとのこと。復興住宅や商業施設、兵庫県立美術館、気象台等の神戸防災合同庁舎などに加え、「人と防災未来センター」という阪神・淡路大震災の記録と防災教育をテーマにした博物館があります。先日、買い物機に立ち寄ったのですが、映像や展示物も充実しており、被災者の方々のインタビュー記録など、改めてじっくりと見学させてもらうつもりです。

さらに東へ行き、六甲アイランドの基部辺りの東灘区魚崎浜に、当運輸監視部の兵庫陸運部（車検場）があります。ここも埋立地なので、震災時の液状化では苦労したとのこと。今も事務所の一部が少し傾いており、今後に備えて耐震工事が急がれます。

また、灘区、東灘区から西宮市にかけて、有名な灘五郷があります。各酒造メーカーに併設された資料館では、歴史や製造工程などが学べ、試飲もさせてくれます。この地域が酒どころとして発達したのは、酒づくりに適した「宮水」と播州の米、六甲おろしの寒気、丹波杜氏の技量に加えて、輸送手段として廻船の利用が可能であったためと聞くと、やはり産業の発展に運輸は欠かせない、試飲のはしこ酒も回り、我が意を得た気分です。また、日本酒づくりは、ワインなどと比べて発酵のための工程が極めて複雑で（糖分の多いブドウと違い、米はデンプン質のためらしい）、昔からこんな面倒なことを工夫を重ねながら続けているのは、やはり日本人の生真面目な気質あつてのことだと納得した次第です。震災では、白壁や赤煉瓦造りの酒蔵なども損なわれ、中小蔵元の廃業もあつたとのことですが、日本一



灘五郷の酒蔵



第6回サロンセミナー

毎年度、多くの皆様にご好評をいただいております「サロンセミナー」ですが、第6回関交研サロンセミナーが、2012年11月20日、ホテルグランヴィア大阪において開催されました。

講師には、奈良県政を担って奮闘しておられる荒井正吾様を2年越しでお迎えし、多くの会員並びに一般市民の方に参加をいただきました。

開会挨拶



公益財団法人関西交通経済研究センター

会長 野村 明雄

公益財団法人関西交通経済研究センターの会長を仰せつかっております野村明雄でございます。

本日は、当センターが主催いたしました、サロンセミナーにご多忙のところ、多くの皆様方のご参加を賜りまして誠にありがとうございます。心から御礼を申し上げます。

また、大黒伊勢夫 近畿運輸局長様をはじめ、日頃から何かとご支援・ご指導を頂戴しております、行政・当局の幹部の皆様方のご臨席を賜りまして、誠にありがとうございます。

さて、このサロンセミナーは、公益財団の公益的な事業の一つといたしまして、当センター賛助の会員の皆様方のみならず、広く一般の方々にもご参加をいただき、関西の社会経済の発展に関係する様々なテーマについて、毎回、各界の第一人者や有識者の方々から御講話を賜っております。

第6回目となります今回は、奈良県知事 荒井正吾様をお迎えして、「グローバル化時代における日本の行方」と題してご講演を頂戴いたします。さて、昨年3月11日に発生いたしました東日本大震災は、津波の影響と相

の酒造地帯であることは変わらず、私と同様、日頃お酒の世話になっている諸兄におかれては「一見の価値がある」と思います。

◆ 結びに代えて ◆



前述の東部地区以外で震災の被害が大きかったのは、長田区、兵庫区などの神戸市西部地区。古い木造の家屋が多く火災による被害が、一気に広がったらしいのですが、先日、長田周辺を訪れたところ、高層住宅が増えて様変わりしていました。当地出身の漫画家、横山光輝氏の代表作「鉄人28号」の実物大(?)モニュメントの威容に、子供の頃を懐かしく思い出しました。

た。また、この長田界限は、お好み焼きやそばめしのメッカらしく、お店がそこかしこにあります。「ぼっかけ」という牛スジ肉とコンニャクを煮込んで甘辛く味付けたものもこちらが発祥とのこと。世の中にB級グルメという言葉がなかった頃から続く懐かしい味です。

着任して2ヶ月余り経ちましたが、やはり神戸は港町だということを改めて実感しています。古くは大輪田泊や明治の開港以来の歴史もさることながら、時おりの汽笛の吹鳴や坂道から常に海を臨む地形から、港が身近な存在として市民に根付いているように感じられ、この街で海事行政に携えることをありがたく思う次第です。

以上、思い付くままに駄文を書き連ねましたが、やはり震災のことに多く触れてしまいました。実は、1995年の阪神・淡路大震災の当時、米国に



駐在していたため、自分が育った阪神地区等の惨状を報道で眼にしながらも、何のお手伝いもできなかったことがずっと気に掛かっていました。神戸の街並みは綺麗に復興していますが、今回の赴任の機会に、神戸ひいては関西における運輸・観光産業の振興や、南海トラフ地震対策を含む国民の安全・安心の確保のために少しでもお役に立てればと思っております。今後ともよろしく御願ひ申し上げます。

講演

グローバル化時代における日本の行方



奈良県知事 荒井 正吾

かつて一万五千名を超える尊い命を奪い、住居をはじめ、産業の生産拠点や、交通ネットワークなどを、ことごとく壊滅させるという未曾有の被害をもたらしました。各地では、被災された方々の不屈の精神を抛りどころに、全国からの物心両面の支援のもとで、復興への歩みは強まっておりますが、震災からすでに一年半を経過いたしました現在でも、その道程はまだまだ厳しい状況にあります。

このように、東日本大震災が震災地域の経済、社会活動に与えた影響は甚大ですが、その後の原子力発電所の停止は、全国のエネルギーの安定供給に不安をもたらし、日本の社会全体におきましても大きな影響を及ぼしております。

さらに、EUにおける信用不安が拡大したり、あるいは米国の経済が停滞する一方で新興国市場が存在感を増しつつある等、世界経済は激変期にあり、日本の経済活動にも様々な形で影響を及ぼしております。

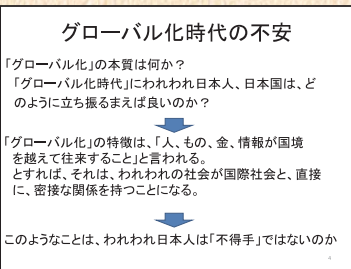
ピンチはチャンスという言葉もございますが、もちろん関西の社会経済におきましても、さらなる活性化や競争力の強化の為の、大きな転換期であるということも事実でございます。

そこで、本日は奈良県知事 荒井正吾様から知事ご自身の貴重なご経験をもとに、日本の世界経済の今後を展望するうえでの課題と方向性などをご教授いただきます。

結びに、本日のセミナーが、ご参加を賜りました皆様方にとって、今後のビジネス展開の一助となりますことを心から祈念いたしますとともに、私ども、公益財団法人関西交通経済研究センターに対しまして今後とも温かいご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます、開会にあたりましての挨拶といたします。本日は誠にありがとうございます。

今日はこちらセミナーにお招きいただきありがとうございます。昨年もお招きいただきましたが、紀伊半島の大水害があり流れました。その時は観光の講演をしようと思いましたが、一年経ちますと、ちょっと難しい事を考え始めてしまいました。実は野村会長から、今転換期なのでどうすればいいのか皆迷っているといったお話がありました。奈良は選都1300年のお祭りのときの目標が、1300年をお祝いし感謝ということ、もう一つ考えるということを入れました。この時代、考えるということが大事ではないかということで、考えるというテーマで1時間半ほど時間を拝借したいと思います。

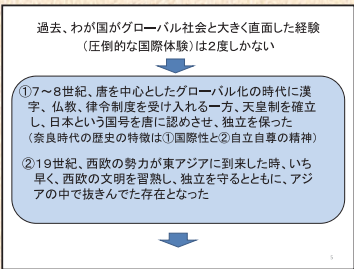
国際社会とのお付き合いは不得手??



会と直接に密接な関係を持つということになります。このような国際社会と密接な関係を持つということは、日本の長い歴史から考えると、不得手種目ではないかというのが、一つのスタートのポイントです。

国際体験が圧倒的に不足

過去、我が国がグローバル社会と大きく直面した経験（圧倒的な国際体験）は二度しかないと思います。一つは7世紀、8世紀、唐を中心としたグローバル化の時代に漢字や仏教、



律令制度を受け入れる一方、天皇制を確立し、日本という国号を唐に認めさせ、独立を保った（奈良時代の歴史の特徴は国際性と自立自尊の精神）。ここで奈良が出てくるわけですが、遣唐使が積極的に国際化の海に出た時代、それは自立自尊の精神をもとに出た大変貴重な歴史です。もう一つは、今度は押し寄せられた方ですが、19世紀に西欧の勢力が東アジアに到来したわけですが、これは順番に東アジアの南から到来したので、日本は最後になりました。その結果、機会があつてうまく身を守った。その結果、


続いてその二つの歴史をざっと見ますと、共通する特徴は、周りに緊迫した国際情勢があつたということ。それと中央集権国家の形成をその時に指向したこと。太政官というような制度は奈良時代と明治政府にしかできなかった国家統治機構です。それから外国の文明を積極的に受容したということ。それと外国人教師の国内配置が積極的で、政治体制の抜本的改革に成功した。廃藩置県にして、当時の政府の政治にして、歴史でもびっくりするような政治改革に、この国際情勢の中で成功した。それから国家の独立性が維持できたこと。この全部を達成したというのは凄いことであつたと思います。我が国が韓半島、中国大陸で大規模な戦争を行ったのは過去三度あります。一つは、663年白村江の戦い。二つ目は文禄・慶長の役。三つ目は中国との戦争。

↓

- WTO、FTA、EPA、TPP等、マルチの仕組みは今後どのように構築され得るのか
- G20など国際協議会議体制は有益か？
- ウォールストリート金融の規制は合意可能か？

↓

日本人はマルチの仕組みを理解するのが弱い
(メカニズムが理解できないか、むやみに信頼しすぎる)



資本主義活動の国境調整が必要ではないか。「国家主権」がまだあるのではないのか。その通りですが、「国民感情」は良いことも悪いことも国境を越える。それぞれの国境調整でみんな色々考えている。

その次は、最近色々個別の会社を水際作戦というよりもマルチの調整をすることが彼らの性格上多いので、マルチはWTOであるとか、FTA上、それからTPP、マルチで構築しようというのに、どうなのか、G20、国際協議会議はあまり有効ではない。現状では、日本人はマルチの仕組みをなかなか理解できない。メカニズムが理解できないが、しかしむやみに信頼しすぎるのはよくないかということはある。


経済政策の考え方はどのように変化するか。転換期の中での経済政策の考え方。一つはミルトン・フリードマン。先ほどの会社の唯一の目的は利潤の最大化、CSRなどは株主からの盗みだと言っています。この人の日本での弟子は竹中平蔵さんです。竹中平蔵さんがミルトン・フリードマンの学説を掲げて小泉純一郎さんの旗本で大きく跋扈しました。今では、その人に関して反発が出て、ノーベル経済学賞の受賞者ですが、ステイグリッツは格差の拡大はいかん、格差が経済的にいかにと言っています。あるいはクルーグマンは1%が99%を支配する。

経済政策の考え方はどのように変化するか？

- ミルトン・フリードマン
→「会社の唯一の目的は利潤(配当)の最大化」
「CSRは株主からの盗みだ」
- ステイグリッツ
→「格差の拡大が社会基盤そのものを揺るがせる」
- クルーグマン
→「1%が99%を支配する」

↓

ミルトン・フリードマンの影響はこれから弱くなるのか？
日本は外国の動向に影響を受け易い？



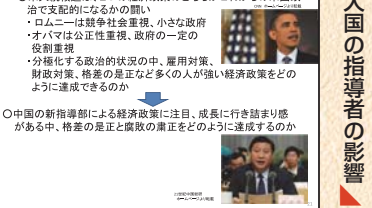
り。」ま、商売ですが。「大国の大名より皆商賈の中の人なり。」大名、士もそうだ。「商賈の身分で居ながら商賈を笑うゆえ貧になる筈の事也。」ということ、稼ぐ人が稼ぐ人を笑うのはおかしいではないか。元士ですが、「売買は天理也。」こう言った。世の中の一番の動きの元を言っている。凡そ沢山に取れるものを、もっと沢山に取らせて、大廻しにまわす経済がある。産物廻しが経済のあるべき姿ですよということを、すでにこの1800年くらいに言っていた人が、思想家としていたわけです。太宰春台という人は経世済民ということを書いた。これは先ほどのアダム・スミスからの比較がありますが、倫理性からの離脱をしようと、経済の元になった言葉を裏返しにした言葉を、太宰春台が言っています。

大国の指導者の交代に注目

- 米大統領選は、2つの経済政策のどちらがこれからの米国政治で支配的になるかの闘い
- ・ロムニは競争社会重視、小さな政府
- ・オバマは公正社会重視、政府の一定の役割重視
- ・分権化する政治的状況の中、雇用対策、財政対策、格差の是正など多くの人が強い経済政策をどのように達成できるのか

↓

○中国の新指導部による経済政策に注目。成長に行き詰まり感がある中、格差の是正と腐敗の是正をどのように達成するのか



大国の指導者の影響

わなないまま違いを出そうとしているような気がしますが、アメリカは違いがすこく出てしまふ。中国の新指導部に習近平さんが来ましたが、大事なことは成長が行き詰まる、格差の是正、腐敗の肅清をどう達成するのか。日本は腐

政治的な批判ではなく、経済的にいかにのたということを行っています。フリードマンはアメリカではまだ影響を与えているこの3人の動向について、日本は根っこをよく考えて、竹中さんが言おうと上の方に立つのか、下の方に立つのかということ判断しなくてはいけない時代が来ている。今の政権構図を見ていると、選挙に向かう時はどちらに立っているのかよく分からないままです。

日本の資本主義

日本にも資本主義があったのでは？

①「和同開珎」の発行(710)
しかし、明治時代までは、基本的に農業中心の経済体制

②江戸時代の経済思想の発展

石田梅岩(1685~1744)
丹波国中農の次男
11才で京都の商家に奉公後、帰郷
33才で再び上京、独学、講義を持つ

「赤利を得るは商人の道なり、商人の買利は士の禄に同じ。」
「世間のありさまを見れば、商人のように見えて盗人あり、
実の商人は先も立、我も立つことを思うなり。」

海保青陵(1755~1817)
丹後国宮津藩家老の子。
旅を繰り返し、晩年は京都で塾。()

「米を売るは商賈(しょうご)也。大国の大名より皆商賈の中の人なり。
商賈の身分で居ながら商賈を笑うゆえ(中略)貧になる筈の事也」
(売買は天理也)

「凡そ沢山に取れるものを、もっと沢山に取らせて、
かっつ大廻しにまわすこと経済也。いかにでもある
品を沢山にまわすべしと也。」(産物廻しが経済
のあるべき姿とする)

経済一経世済民(太宰春台)
→富国論(経済の倫理性からの離脱)

保青陵という人がいて、私はまた注目する人が増えました。この方は中農よりも士であり、最後は京都で塾を開いた方です。言っていることは面白く、「米を売るのは商賈な

↓

米の経済政策や中国の政治情勢が、日本の経済にも大きな影響を与える
(両大国の国内情勢の動向に関心を持ち、分析する)

↓

グローバル化した世界で、両大国はどのような経済戦略をもつのかを分析し、日本の経済戦略をどのように構築すればよいのかを考える

↓

グローバル化に対しては、それぞれの国の特色ある対応の仕方がある

グローバル化の中の日本の立ち位置


敗というのはいちいちありませんが、格差と成長の行き詰まり感と同じような課題があるように思います。両大国の経済政策が日本にどのように影響を与えるのか。グローバル化された世界で両大国の経済戦略の行方を見ながら、日本の経済戦略をどう構築すれば良いのか、政治課題があるように思えるが、日本の政治リーダーの公約などにこの姿が見えないような気がしています。

後半になりますが、グローバル化社会の中でどのような立ち位置をとり、どの方向に向かえば良いのか。答えがあるわけではありませんが、考えてみませんかということ。五つの視点で考えたいと思います。一つは、我が国の発展形態。もう一つは、産業振興。それは国全体で引っ張るのではなく、地域ごとの内発的な産業振興というパターンで向かう方がよいのではないかとこの視点。このような議論をされる方もいる。もう一つは雇用ということ。もう一つは消費。もう一つは社会保障の充実。このような五つの視点、これは実は県政の課題でもあるのです。県政の大きな課題なので、県の立場から考えているので、決して日本の立場を考えているわけではないのですが、地域の立場と国の立

1. わが国の発展形態

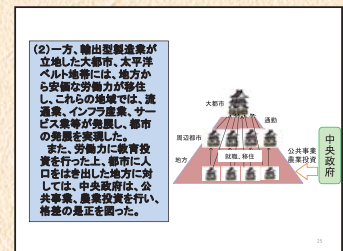
自立・連携・分散を基本にして、わが国の発展を考える

(1)戦後の日本の発展は、「高度成長」と「格差の是正」を両立させた珍しいケースである。それは、経済の分野では、日本の経済を牽引する輸出型産業を中心に、系列化された周辺企業が一体となって、経済の高度成長を担ったことによる。

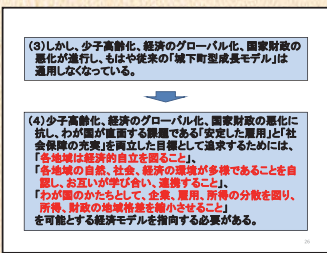


場とあまりずれてはつまらない。国の権限を、地方の行政とか、そんなことはかり言っている、どのように向かえばいいかという議論をした方がいいのではないかと感じています。

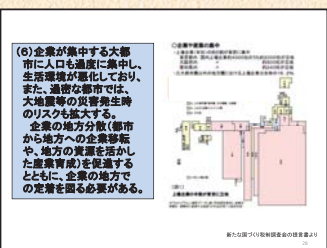
我が国の発展形態の立場ですが、自立・連携・分散を基本にして、わが国の発展を考える。今までのこのお城・これは輸出巨大産業、周辺企業集積、系列下された下請企業といった典型的な城下町、経済城下町ですが、戦後の日本の発展は、「高度成長」と「格差の是正」を両立させた珍しいものです。これは世界でもほとんど両立できなかったケースはないのですが、経済の分野でどうしてできたのか。輸出型製造業を中心に、系列化された周辺企業が一体となって経済の高度成長を担ったという面が多



す。行政というのは、大都市を中心に奈良のような周辺都市、人が田舎から大都市、中都市に就職・移住をして、空洞化するのを中央政府が公共事業・農業投資で金を撒くという財政です。中国の場合は安価な労働力が移住してきて大都市の発展が実現した。労働力は、教育投資は地方で行い、都市で働くというパターンでした。その代わり中央政府は地方に公共事業・農業投資で還元を行って生活格差の是正を図った。これは戦後珍しく成功したケースです。しかし、少子高齢化、経済のグ



ローバル化、国家財政の悪化という状態の中で、城下町型成長モデルは通用しないのではないかと考える一つの材料です。少子高齢化、経済グローバル化の中で直面する「安定した雇用」、「社会保障の充実」を両立した目標として追求しなければいけないのではないかと。これは中央政府だけではなしに全ての人が思われると思いますが、その他考える仮説の中で各地域は経済的自立を図るとするのが一つの目標課題。もう一つは、地域は自然、社会、経済の環境は多様である。多様であることを自認し、様々な要件が揃っているで互いに学び合い、場合によっては連携する。みんなで一緒に頑張ろうということに組み込まない方がいいのではないかと。わが国の形として、地方中心ではなく、企業・雇用・所得の分散を図り、所得、財政の地域格差を縮小させる。東京に極端集中するだけではなく、もう少し広くドイツやアメリカの様に分散を図るということを経済モデルとして考える。集中してやるというよりも分散して経済を発展させようという経済モデルはできないかということ考えた方がいいという事です。わが国の多様な地域の連携の発想で、ネットワーク型の経済・国家モデルを指向したらどうか。知事会の中でこういう考え



わが国の発展を「多様な地域の連携」の発想で、ネットワーク型の経済・国家モデルを指向して行う

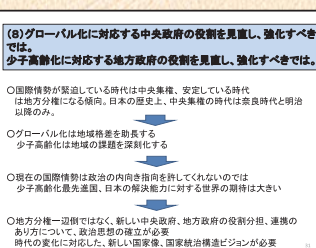
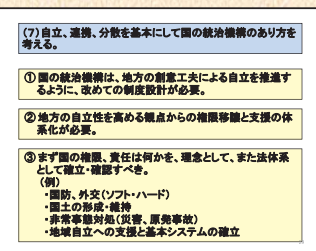
自立・連携
各地域は経済自立を目指す。各地域は自立のための連携を構築する。

分散
企業・雇用・所得の分散が認められる。所得、財政等の地域格差が縮小する。

国の役割は
ネットワークがシステムとして構築するための政策・ソフト開発、推進、維持、補填する。各地域の自立・連携の地方向上のための支援システムを構築する。

トワーク」という連携会合を持っています。その発想は自立を指向して連携をしようということですが、ネットワーク型の効果は結果的に企業・雇用・所得の分散の方が国はいいのではないかと。地域格差が縮小した方がいいのではないかと。その際の国の役割というものが今までと少し違ってきて、違う地域がネットワークとして機能するための基本ソフトを開発したらどうか。それぞれの特色あるところが、それぞれの形で発展するよう

に支援するというパターン。このように思うのですが、幕府が支援するというより、幕府を各藩が支援させたということ、それが発展形態を考えると、それはなかつたかと思えます。企業・産業の集中度ですが、やはり東京が圧倒的に多く、大阪が次。人口・産業の集中は災害が起こるなど、何かあった時にリスクがあるのではないかと。分散が出来る国柄になった方がいいのではないかと。この考え方をし始めているということ、自立・連携・分散を基本にして国の統治機構のあり方を考える。



権ということではなく、できるところは分権をやるという考え方。国はそのために、国がやらなければならないことをまず自分で考える。理念として何でもしようとする時代は終わった。中央政府として、グローバル化の時代を担うということ、国防・外交・国土の形成・維持、それと大きな非常事態への対処。それから今の地域自立への支援と基本システムの確立。こういうことが国の役割の中心になるのではないかと。地方の権限・責任の強化は基礎自治体が一

地方の権限、責任の強化は、基礎自治体の機能強化を第一に考えるべき。ここからの国の発展形態を考えると、既存の中間自治体の役割を積極的に評価し、位置づけるべき。

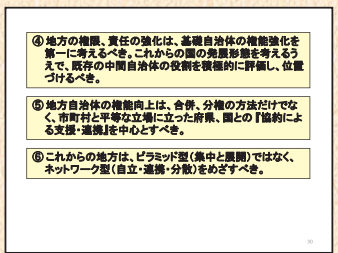
地方自治体の機能向上は、合併、分権の方法だけでなく、市町村と平等な立場に立った府県、国との協力的な支援・連携を軸とすべき。

これからの地方は、ピラミッド型(集中と展開)ではなく、ネットワーク型(自立・連携・分散)をめざすべき。

産業の集中は災害が起こるなど、何かあった時にリスクがあるのではないかと。分散が出来る国柄になった方がいいのではないかと。この考え方をし始めているということ、自立・連携・分散を基本にして国の統治機構のあり方を考える。地方の創意工夫による自立を推進するというこ

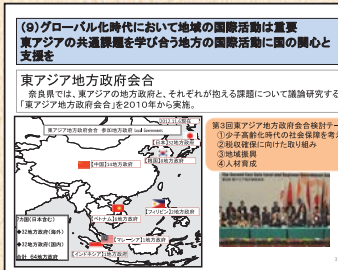
型ではなしに、集中と展開ではなしに、自立・連携・分散という思想で国と地域のあり方はどうなのか。これはグローバル化に対応するための一つの統治機構の知恵ということだと自分は考えます。

国際情勢が緊迫している時代は中央集権、安定している時代は地方分権になる傾向があります。日本の歴史上、中央集権の時代は奈良時代と明治以降のみです。グローバル化は地域格差を助長する面がありますし、少子高齢化は地域の課題を深刻



点からの権限移譲と支援。なんでも地方分

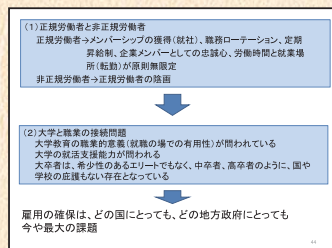
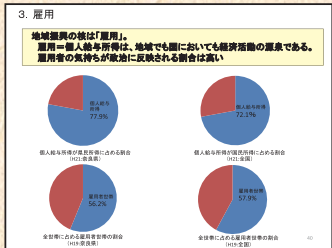
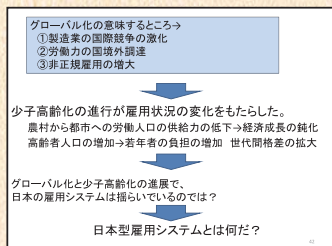
ローバル化は地域格差を助長する面がありますし、少子高齢化は地域の課題を深刻



雇用

これは都道府県の就業者が三大都市圏に集中しており、将来このままのペースでいいのかどうか、日本の発展パターンとの関係もある。地域振興の核は雇用だと思えます。資料に書いてあるのは消費の占める割合、個人給与所得が県民所得で占める割合、これは奈良のものですが、給与が下がる所得の中の給与の割合ですが、給与が下がる経済が回らないという面が当然あります。もう一つは世帯の割合で給与者世帯、被雇用者世帯は6割近くなっている。これは政治的な意味があります。ところが雇用が不安定化していると思いますが、非正規雇用が増えて

いる。これは左が奈良県の例で右が全国の例です。雇用の面でグローバル化の意味するところは、製造業の国際競争の激化、労働力の国境外調達、非正規雇用の増大、少子高齢化の進行により農村から都市への労働人口の供給ができなくなり、経済成長が鈍化してきています。高齢者の人口が増加して若年者の負担が増加しています。世代間の格差の拡大。これは、グローバル化の問題というよりも少子高齢化の問題。グローバル化と少子高齢化の進展で、日本の雇用システムが揺らいでいるのではないかと。雇用システムのことをあまり政治課題では言わないが、大変大きな問題であると思えます。



日本の雇用システムは独特の形であると言われています。職務の限定のない企業のメンバーになるための契約。空白の石版と言われています。契約が空白で何をしようとして入ったわけではなく、就職ではなしに就社だと言われる。その特徴は長期雇用、年功賃金、企業別組合です。メンバースhipの維持ということで、入口と出口が大事である。日本の雇用の特徴ですが、新規学卒者定期採用、定年退職ということです。採用の権限が職場の管理職ではなく、人事部署で一括採用、就社、整理解雇は厳しいけれど、定年制で一斉解雇は許されるという日本型雇用システムという。これがグローバル化で動揺しているのではないかと。動揺していると思いますが、これに正面きって対峙する政治活動があまりないように思えます。

正規、非正規ですが、正規労働者は今の日本型雇用の典型ですが、メンバースhipの就社、職務ローテーションがあります。何をするっていうよりもローテーションではかられる時代。定期昇給、企業メンバースhipとしての忠誠心、逆に忠誠心がないといじめられる。こういうことで労働時間と就業場所、転勤が普通になっているということです。転勤もどこでも行けと言われるようになります。殿様にお仕えるように。非正規労働者は、正規労働者の陰画。転勤が嫌いな人は非正規労働になる

日本型雇用システムとは、「雇用契約が職務の限定のない企業のメンバーになるための契約(空白の石版)」→就職ではなく、「就社」

その特徴は、「長期雇用」、「年功賃金」、「企業別組合」
本質は、メンバースhipの維持→入口と出口が大事
→①「新規学卒者定期採用制」②「定年退職」

①→採用の権限が、職場の管理職でなく、中央集権的に人事部署に与えられている
②→整理解雇(仕事がなくなったことが理由)に厳しいが、定年制で、労働者を一律に企業から排除

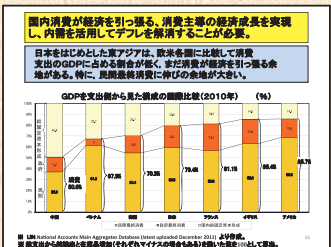
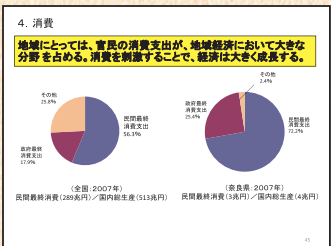
日本型雇用システムの動揺

人も出てきています。

大学と職業の接続問題ですが、大学教育は何なのかというのがあります。就職した時に、就社する時は大学の名前に役立ちますが、職場で教育をしなくてもいい覚えがない人がほとんどです。就活支援能力がない何のための大学なのか。本質的に大卒者は、今や希少性のあるエリートではなく、中卒者・高卒者より国や学校の庇護もない存在で、大卒者受難の時代と言われていてます。雇用の確保はどの国にとっても、どの地方にとっても今や最大の課題であると思えます。アメリカでもヨーロッパでも雇用というのは大きな政治課題ですが、日本ではあまり政治課題という風には言われない。

消費を考える

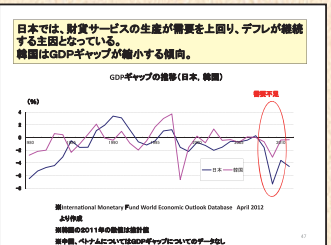
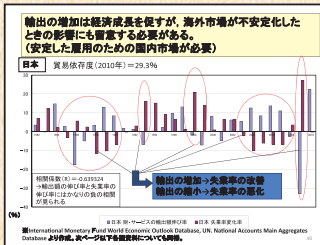
次は消費ですが、地域経済に大きな意味があります。消費支出の割合では奈良県は、ほとんど9割が民間の最終消費支出と政府の最終消費支出です。日本は民間の最終消費支出というものがとても大きく、500兆円の中の3割です。アメリカの消費の割合はとても大きく、日本も大きくなってきていま



すが、国内の固定資本とかインフラ形成が大きな課題となっていて日本では財貨サービスの生産が必要を上回りデフレになって

いる。これは韓国との比較ですが、デフレギャップが日本はいまだに結構大きい。デフレ解消をどうするかということでもあります。輸出で経済の均衡ということもありますが、海外市場が安定化している時はいいのですが、海外市場が不安定化した時は、今の中国リスクの場合、国内の雇用にも影響します。景気にももちろん影響します。グラフとしては表と裏、輸出が増加すると失業率は改善しますが、輸出が縮小すると失業率は悪化します。もう少し安定した雇用ができないだろうか。もう一つは輸出額が大きい円高になってしまわないかということです。

内需型雇用は海外に逃げない。サービスを中心とする内需型経済をもう少し振興しませんか。その中で観光というのは大きいですが、観光は地域間の所得移動というところで、平和的な所得移動です。松下幸之助さんは地域振興のためには、工場を一つ作るよりもホテルを一つ作る方が大事であると、昭和の20年代から30年ぐらいに言っておられるよう



です。地域の観光振興には、がんばる変人が不可欠です。がんばる地域、がんばる観光産業人を中心に地方を応援したいと思っておりますが、なかなか難しい。それから、観光統計の充実が必要で、これは政府の役割です。フランスなどは、遊んでいてもあれだけ経済が振興するから、働いてばかりではなく、もう少しワークライフバランスを良くすると経済も良くなるのでは

健康長寿を目指して

大変難しいように聞こえたかも知れませんが奈良県知事はこんな勉強をして、あまり分かってもらえないのですが、時代の転換期を出来るだけ強く意識して、一緒にTPOの方向性を考えようとしています。一つの方向は、改めて健康です。健康長寿のことは、先ほど運動と食事と外出と言いましたが、あと、健康寿命の市町村別の差を見ますと、健康寿命が長いところは医療費が多いかという点、逆です。医療費はむしろ少ないです。他の要素は、高齢者でも働いて所得を得るというより、何か仕事をされている町の方が高齢化率は高い。平均寿命ではなしに健康寿命が高い所は介護の給付金が低い。介護期間が短い。市町村別でもそんな差が出ます。

お酒を飲んだら早く死ぬとかそんなことではなしに、バランスのいい生活、それとも一つ生活習慣病を退治しよう。ガンなども生活習慣病だという風に考えて、生活習慣を良くする環境整備を行政的にしよう。運動がいっぱいできる環境を作ろう。あるいは、こういうカルチャーや音楽もしよう。そういう風に地域でできるアクティビティを心得て、パフォーマンスの結果として健康寿命が伸びることになれば住みやすくなると思います。

奈良県は自殺率が全国で一番低いです。自殺は全国で3万人を超えていますが、奈良県は一番低いといっても自殺率230人程度です。世界的に自殺するのは男性の方が女性の3倍くらい多いですが、女性の方が男性の自殺率より高いのは中国の農村部だけです。奈良県がどうして低いのかを調べてくれと担当に言ったら、結論的などは出ませんが、相関関係で高いのが2つ見つかりました。一つは、お酒の消費量が男性で一番低いということがわかりました。そこで男の人は大阪に行つて飲んでるのではないかと反論したら、担当がお酒を飲む場所を調査して、みんな大阪で飲んでるのかと思つたらそれほど飲んでいない。せいぜい1割ちょよつとです。9割近くは奈良で飲んでるということがわかりました。お酒の消費量が多い所は自

殺数が高くなっています。

もう一つは何だと思われでしょうか。自殺率の低い県は、貯蓄額が高いということです。奈良県は世帯別貯蓄高で言うとな国3位です。日本は全体的にすぐ指標が良くて、パフォーマンスのいい国ということでは世界でもトップクラスです。それをできるだけ持続するためには、いい社会を壊さないように、小さな事はあまり気にせず、大きな間違いをしない様に、大事な心は守ると覚悟を決めなければいけないと思います。それと、問題があれば直視してやっつけなければいけないのですが、日本人は目を逸らす傾向があります。なぜ問題を直視しないのかという説では、古事記の中で、イザナギが黄泉の国に亡くなった妻を求めて行った時、元妻のイザナミから私の姿は見えないでくれと言われたのに、やっぱり見たくなくなってばつと見たら、うじ虫がわくよくなすこい姿だった。見ると不幸になるので、見ない方が良くというのが神話にあります。こういう一つの例があり、奥さんの姿は見えない方がいいのかもしれないですが、世の中の姿はしっかりと見ないといけないと古事記を読んだ方がいいのではないのでしょうか。そのようなことも、何でも奈良の歴史というものに引つけて地域振興のネタにしているところですよ。

1時間半お付き合いいただきまして誠に恐縮でございました。今後とも奈良県をよろしくお願ひ致します。ありがとうございました。



閉会挨拶



公益財団法人関西交通経済研究センター

理事長

岩崎

勉

岩崎でございます。奈良県知事の荒井正吾様、大変ご多忙の中、本日の第6回サロンセミナーで熱心にお話をいただきまして感謝申し上げます。

併せてましてご来場の皆様、お集まりいただきまして誠にありがとうございました。本日は「グローバル化時代における日本の行方」ということで、荒井知事から非常に幅広く、かつ豊かなご見識をご披露頂きました。学習的なテーマということですが、最後は非常に和やかな雰囲気健康管理のお話をいただきました。

皆様方には非常に厳しい経済状況の局面でございますけれども、それぞれのお立場で、グローバル化時代における企業運営等について、ご参考になったのではないかと思います。

少し手前味噌になりますけれども、野村会長からもお話し申し上げましたが、私も関西交通経済研究センターはおかげさまで本年の4月に公益財団法人に移行できました。さらに、運輸安全マネジメントコンサルタント事業というものも開始しております。出前講座ということもいたしております。

で、引き続きご愛顧のほど、よろしくお願ひ致します。最後になりますけれども、荒井知事が地方政治のみならず、様々な分野でさらにご活躍されますことを心よりお祈り申し上げます。

また、ご参加の皆様方に重ねて御礼を申し上げます。本日はどうもありがとうございました。閉会のご挨拶とさせていただきます。

